

昨年を上回る48人が入学
第46回葛巻高校入学式



新入生を代表して力強く宣誓する阿部海翔さん

葛巻高校（梅津久仁宏校長・生徒133人）の第46回入学式は4月8日、同校体育館で行われました。今年度は、昨年度を上回る48人（うち町外から12人）が入学。夢と希望に満ちた高校生活をスタートさせました。

式では、梅津校長が「高校生活の中で自分の将来をしっかりと考え、実現に向けて着実に進んでほしい」と式辞を述べ、鈴木重男町長が「長い人生の中で最も大事な3年間。進学や就職で一度は町外に出ても、やがては葛巻で活躍するということを念頭に置きながら将来設計を考えてほしい」と祝辞を送りました。

また、新入生を代表して阿部海翔さん（江川中学校卒）が「葛巻高校の伝統を受け継ぎ、さらなる発展に向けて、仲間と共に日々努力します」と力強く宣誓しました。



〔3〕平成27年5月1日・広報くずまき

来町して1カ月が経ち、インタビュー



学校も牧場も楽しい
毎日がとても
充実しています

■葛巻での生活はいかがですか？

3月26日に葛巻に来たとき、雪が多くて驚き、神戸とは気候が全く違うことを実感しています。皆さん親切なので、とても生活しやすいです。

■高校生活は楽しいですか？

クラスみんながフレンドリーで、友達もできたし、とても楽しい毎日を過ごしています。クラブは、中学生の時に所属していた陸上部に入部しました。競技は、走り高跳びと走り幅跳びに取り組みたいと思っています。学力もしっかり身に付けたいと思います。

■プラトリーでの寮生活は？

大きいお風呂に、おいしいご飯、素晴らしい景色。とても快適です。山地酪農研修センターの研修生が仲良くしてくれるので楽しいです。週末には車で買い物にも連れて行ってくれるので、寮生活に不便は感じません。くずまき高原牧場内は自転車で移動しています。

■牧場の作業を実際に体験してみたい

今のところ、主に牛舎内の清掃を任されています。職員の皆さんに迷惑がかからないよう、早くきれいにできるように心掛けています。大変なときもありますが、牛が好きなので苦にはなりません。夢の実現のために、しっかりと酪農も勉強したいと思います。

【優しい表情の中に、しっかりと将来を見据える大澤さん。4月25日、くずまき高原牧場にて】

岩手県の県立高校は原則、他の都道府県から入学する場合、一家での転住が必要ですが、「くずまき山村留学制度」は、町が身元保証人になるほか、月額2万円の自己負担で3食付きの寮が提供される支援策と、同牧場が持つ体験教育事業のノウハウが評価され、県教育委員会が特例を認めました。

幼少から自然や動物が好きという大澤さん。中学1年時に北海道紋別市で約1週間、酪農生活を体験し、牧場の経営者になりたいと夢を抱くようになりました。進学を考える際に、中学校の担任からこの制度を聞き、昨冬に来町。人の温かさや豊かな自然、環境が気に入る、同校を受験し、合格しました。

夢は牧場の経営者



くずまき山村留学制度

初の入学生

ようこそ！

葛巻高校へ

神戸出身の大澤然さんが入学



1動物の中でも特に牛が好きという大澤さん。優しい手つきで子牛一頭一頭の保育作業に当たります
2約100頭が飼養されている牛の餌やりや牛舎内の清掃作業も楽しそうにこなします（1、2とも、くずまき高原牧場）
3緊張した面持ちで葛巻高校の入学式に臨む大澤さん（左から2番目）

少子化で生徒数が減少する中、入学者を確保しようと町が全国から募集した「くずまき山村留学制度」で、初の生徒が4月8日、葛巻高校に入学しました。

入学したのは兵庫県神戸市出身の大澤然さん（15）。神戸から駆けつけた母千絵さん（43）と妹更ちゃん（8）が見守る中、大澤さんは緊張した面持ちで式に臨みました。

葛巻高校は昭和55年度の406人をピークに生徒数が減少し、平成27年度は約3分の1の133人。今後も減少傾向が続くことが予想されることから、町は生徒の減少に歯止めをかけようと、全国から新入生を募る「くずまき山村留学制度」を今年度入学者から導入しました。

大澤さんは親元を離れ、寮代わりとなるくずまき交流館プラトリーに住み込み、高校に通いながら、週末や長期の休みなどにくずまき高原牧場での酪農体験や自然体験、イベント企画に携わります。町のスクールバスで通学し、3食付きの寮費月6万円のうち4万円は町が負担します。

広報くずまき・平成27年5月1日〔2〕